



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月9日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 東  
 コード番号 7458 URL <https://www.dkkaraoke.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 保志 忠郊  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 西原 康尚 (TEL) 03 (3280) 2151  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 2022年12月5日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	60,671	53.5	5,469	—	5,773	—	5,990	—
2022年3月期第2四半期	39,529	△7.6	△1,945	—	△1,176	—	△1,429	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 6,208百万円(—%) 2022年3月期第2四半期 △1,277百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	109.73	109.57
2022年3月期第2四半期	△26.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	184,480	108,286	57.8
2022年3月期	180,389	105,160	57.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 106,621百万円 2022年3月期 103,543百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	56.00	—	57.00	113.00
2023年3月期	—	56.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	57.00	113.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	126,500	33.5	12,000	—	12,800	—	10,000	92.4
								183.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期2Q	54,734,200株	2022年3月期	54,734,200株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年3月期2Q	141,302株	2022年3月期	141,260株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期2Q	54,592,931株	2022年3月期2Q	54,558,572株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績の状況	2
(2) 財政状態の状況	4
(3) キャッシュ・フローの状況	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(追加情報)	12
(四半期連結損益計算書関係)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年9月30日、以下「当第2四半期」という)におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響が徐々に弱まり、個人消費を中心に正常化への動きがみられましたが、コロナ禍の収束は依然見通せないことに加え、急激な円安やエネルギー資源及び原材料価格の高騰などにより、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当カラオケ業界におきましては、前期にまん延防止等重点措置とそれらに伴う要請等が解除されたことにより、ナイト市場・カラオケボックス市場ともに多くの店舗が通常営業を再開いたしました。ビジネス立地や深夜帯の集客など一部にはコロナ禍の影響が継続したほか、7月には感染の再拡大も見られたものの、行政による営業制限等は行われず、全体として回復傾向で推移いたしました。

このようななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当第2四半期の業績は、売上高は60,671百万円(前年同期比53.5%増)となり、営業利益は5,469百万円(前年同期は1,945百万円の損失)、経常利益は5,773百万円(前年同期は1,176百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,990百万円(前年同期は1,429百万円の損失)となりました。

なお、前連結会計年度を対象とした雇用調整助成金や時短協力金をはじめとする各種給付金を「助成金収入」として、2,868百万円(前年同期は5,660百万円)を特別利益に計上しております。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	39,529	60,671	21,141	53.5%
営業利益	△1,945	5,469	7,414	—
経常利益	△1,176	5,773	6,950	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	△1,429	5,990	7,419	—

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

## (業務用カラオケ)

当事業におきましては、各種要請が解除されたことに伴う顧客店舗の再開や新規開店の増加により、主力市場であるスナック・バーなどのナイト店舗を中心に、事業環境は回復傾向で推移いたしました。

このようななか、当期の重要課題としておりますDAM稼働台数回復のため、カラオケ機器導入を支援するウェブサイト「カラオケの窓口」を前期に開設したことに加え、4月には物件情報サイト「よるみせナビ」を開設したほか、介護施設等のエルダー市場においてはオンラインイベントを開催するなど、当社の強みである対面での営業に加えてウェブも活用した営業体制の構築に努めました。

また、前期にリリースいたしました、ライブの臨場感をそのままカラオケ店で体感できる新コンテンツ「ライブビュー!」をはじめ、ライブ映像・アニメ映像・ミュージックビデオなどの映像コンテンツをさらに充実させることにより、カラオケDAMの商品力強化を図りました。

なお、介護施設職員の業務負荷軽減に繋がる「リモートセッション機能」などを新たに搭載したDKエルダーシステム専用の最新機種「FREE DAM LIFE(フリーダムライブ)」を10月に発売しており、今後、旧機種からの入替へとエルダー市場における新規顧客の獲得を図ってまいります。

以上の結果、売上高は前年同期比14.0%の増収となり、営業利益は前年同期比29.0%の増益となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	25,183	28,716	3,533	14.0%
営業利益	5,792	7,472	1,679	29.0%

## (カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、カラオケ6店舗、新業態(あまつ、ぎん天)を含む飲食6店舗の出店、及びカラオケ3店舗、飲食6店舗の閉店を行ったことにより、当第2四半期末の店舗数はカラオケ506店舗、飲食175店舗となりました。

コロナ禍に伴う各種要請が前期で解除されたことにより、店舗の集客は期初から回復傾向で推移いたしました。しかしながら、ビジネス立地や深夜帯の集客など一部でコロナ禍の影響が継続したほか、7月中旬以降の感染拡大の影響を受けて回復基調が一旦後退したことから、当第2四半期の既存店売上高はコロナ禍以前に比べ約3割減(前年同期は8割減)となりました。

このようななか、ビッグエコー店舗においては最上位機種である「LIVE DAM Ai(ライブダムアイ)」を全室に設置した店舗を42店舗とするなど設備面での強化を図り、顧客満足度向上に努めました。また、SNS(Twitter・TikTok)によるカラオケの楽しさの訴求を始め、6月より全店で開始した「最強学割」を打ち出すことなどにより、若年層の集客にも注力いたしました。

以上の結果、売上高は前年同期比258.6%の増収となり、1,671百万円の営業損失となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	6,331	22,702	16,371	258.6%
営業利益	△6,981	△1,671	5,309	—

## (音楽ソフト)

当事業におきましては、イベント・コンサートが徐々に再開され始めるなど、音楽業界にも活気が戻りつつあるなかで、CD・DVD等の商品販売が回復傾向で推移したほか、TV番組制作事業も堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は前年同期比18.6%の増収となり、営業利益は前年同期比299.2%の増益となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	2,717	3,221	504	18.6%
営業利益	24	98	74	299.2%

## (その他)

当事業におきましては、新たな収益の柱とするべく「ザ・パーク」ブランドで展開するパーキング事業が堅調に推移し、当第2四半期末時点で1,900施設、23,000車室を超える規模に拡大いたしました。

以上の結果、売上高はパーキング事業収入の増加などの影響により前年同期比13.8%の増収となり、営業利益は前年同期比110.5%の増益となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	5,297	6,030	732	13.8%
営業利益	374	788	413	110.5%

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4,090百万円増加し、184,480百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産の現金及び預金が1,998百万円、受取手形及び売掛金が579百万円、棚卸資産が491百万円及びその他に含まれる前払費用が1,053百万円それぞれ増加しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ964百万円増加し、76,193百万円となりました。

これは主に、流動負債の支払手形及び買掛金が339百万円及び賞与引当金が489百万円それぞれ増加したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ3,126百万円増加し、108,286百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加5,990百万円及び剰余金の配当による利益剰余金の減少3,111百万円によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,998百万円増加し、70,124百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益が8,712百万円、減価償却実施額が5,079百万円及び法人税等の支払額が1,827百万円等により、11,367百万円（前年同四半期連結累計期間は1,606百万円の使用）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が3,527百万円、無形固定資産の取得による支出が1,615百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ852百万円増加し、5,901百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、配当金の支払額が3,111百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ185百万円増加し、3,500百万円となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年8月8日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	68,214	70,212
受取手形及び売掛金	4,127	4,706
棚卸資産	7,596	8,088
その他	4,796	5,600
貸倒引当金	△457	△377
流動資産合計	84,277	88,230
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器（純額）	6,294	6,525
カラオケルーム及び飲食店舗設備（純額）	10,380	10,545
土地	40,341	40,340
その他（純額）	5,970	6,303
有形固定資産合計	62,987	63,714
無形固定資産		
のれん	996	938
その他	5,861	5,964
無形固定資産合計	6,858	6,902
投資その他の資産		
投資有価証券	4,507	4,713
敷金及び保証金	13,449	13,622
その他	8,375	7,435
貸倒引当金	△64	△138
投資その他の資産合計	26,267	25,632
固定資産合計	96,112	96,249
資産合計	180,389	184,480

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,614	2,954
短期借入金	6,098	16,016
未払法人税等	1,985	2,034
賞与引当金	1,141	1,630
その他	9,817	9,979
流動負債合計	21,658	32,615
固定負債		
長期借入金	41,705	31,406
役員退職慰労引当金	993	1,026
退職給付に係る負債	7,846	8,079
その他	3,024	3,064
固定負債合計	53,570	43,578
負債合計	75,229	76,193
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,114	4,114
利益剰余金	87,733	90,612
自己株式	△570	△571
株主資本合計	103,628	106,506
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	606	742
土地再評価差額金	△733	△733
為替換算調整勘定	69	114
退職給付に係る調整累計額	△26	△8
その他の包括利益累計額合計	△84	114
新株予約権	219	255
非支配株主持分	1,397	1,409
純資産合計	105,160	108,286
負債純資産合計	180,389	184,480



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	39,529	60,671
売上原価	27,488	39,771
売上総利益	12,041	20,899
販売費及び一般管理費	13,987	15,430
営業利益又は営業損失(△)	△1,945	5,469
営業外収益		
受取利息	10	9
受取保険金	319	94
受取協賛金	144	93
その他	533	350
営業外収益合計	1,007	548
営業外費用		
支払利息	109	87
為替差損	23	40
解約違約金	49	35
その他	55	80
営業外費用合計	238	243
経常利益又は経常損失(△)	△1,176	5,773
特別利益		
固定資産売却益	11	3
負ののれん発生益	-	112
助成金収入	5,660	2,868
特別利益合計	5,672	2,983
特別損失		
固定資産処分損	30	26
減損損失	60	18
投資有価証券売却損	0	-
投資有価証券評価損	108	-
新型コロナウイルス関連損失	6,299	-
特別損失合計	6,499	44
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,004	8,712
法人税、住民税及び事業税	684	1,807
法人税等調整額	△1,275	895
法人税等合計	△590	2,703
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,413	6,009
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	19
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,429	5,990

## (四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,413	6,009
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	106	136
為替換算調整勘定	8	45
退職給付に係る調整額	21	17
その他の包括利益合計	136	198
四半期包括利益	△1,277	6,208
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,292	6,189
非支配株主に係る四半期包括利益	15	19

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,004	8,712
減価償却費	6,002	5,079
のれん償却額	53	54
減損損失	60	18
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	6	33
受取利息及び受取配当金	△147	△78
支払利息	109	87
為替差損益(△は益)	△6	△33
投資有価証券売却損益(△は益)	0	-
投資有価証券評価損益(△は益)	108	-
固定資産処分損益(△は益)	19	23
助成金収入	△5,660	△2,868
負ののれん発生益	-	△112
売上債権の増減額(△は増加)	1,083	△566
棚卸資産の増減額(△は増加)	△94	△491
カラオケ賃貸機器の売上原価振替	80	27
前渡金の増減額(△は増加)	△42	△242
仕入債務の増減額(△は減少)	△455	326
未払金の増減額(△は減少)	△3,958	548
その他	△1,537	△352
小計	△6,384	10,168
利息及び配当金の受取額	147	78
利息の支払額	△110	△88
助成金の受取額	5,501	3,036
法人税等の支払額	△761	△1,827
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,606	11,367
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△363	△10
定期預金の払戻による収入	107	10
有形固定資産の取得による支出	△2,824	△3,527
有形固定資産の売却による収入	76	7
無形固定資産の取得による支出	△1,428	△1,615
映像使用許諾権の取得による支出	△557	△536
投資有価証券の売却による収入	0	-
投資有価証券の取得による支出	△50	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	143
事業譲受による支出	△1,014	△16
貸付けによる支出	△32	△106
貸付金の回収による収入	207	106
敷金及び保証金の差入による支出	△68	△472
敷金及び保証金の回収による収入	445	206
その他	453	△89
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,049	△5,901

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△299	25
長期借入れによる収入	11,250	130
長期借入金の返済による支出	△11,146	△537
配当金の支払額	△3,105	△3,111
自己株式の取得による支出	△0	△0
その他	△12	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,314	△3,500
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	33
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△9,964	1,998
現金及び現金同等物の期首残高	67,680	68,125
現金及び現金同等物の四半期末残高	57,715	70,124

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	25,183	6,331	2,717	34,231	5,297	39,529	—	39,529
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	5,792	△6,981	24	△1,163	374	△789	△1,156	△1,945

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びBGM放送事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,156百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	28,716	22,702	3,221	54,640	6,030	60,671	—	60,671
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	7,472	△1,671	98	5,899	788	6,688	△1,219	5,469

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びBGM放送事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,219百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(追加情報)

固定資産の減損及び税効果会計等におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響について、2023年3月期を通じて緩やかに改善し、中期的にはコロナ禍以前の水準まで業績が回復するものと仮定し、将来キャッシュ・フロー及び繰延税金資産の回収可能性等の見積りを行っております。

なお、前連結会計年度末の仮定について重要な変更を行っておりません。

(四半期連結損益計算書関係)

助成金収入

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発出に伴い、従業員の出勤停止期間中の給料等を対象として助成を受ける雇用調整助成金のほか、国及び地方自治体等から給付を受ける助成金等を「助成金収入」に計上しております。

新型コロナウイルス関連損失

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発出に伴い、対象地域の従業員を出勤停止（特別休暇）とする措置を講じました。また、政府及び地方自治体からの要請に応じ、当社運営店舗及び顧客運営店舗においては臨時休業及び時短営業を行いました。

これらの事象に対応し、従業員の出勤停止期間中の給料等、休業期間中の当社運営店舗の固定費及び業務用カラオケ機器の賃貸等に係る固定費を「新型コロナウイルス関連損失」に計上しております。